

項目	説明	
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	肺切除後に対するデジタルモニタリング胸腔ドレナージ法による管理の 検証
	研究目的	肺切除の手術を受けられた方は、基本的に胸腔ドレーンというチューブが 胸腔内に留置されて機械に接続されて手術を終えます。理由は、肺切除部 位からの空気漏れ、胸腔内排液を感知、排出するためです。以前は空気漏 れや排液をアナログの機械で管理されていましたが、最近ではデジタルに 空気漏れや排液を管理する機械が登場し、一般的な管理は経験的に習得さ れつつあります。しかし、通常、胸腔内は陰圧であるものの個人個人で体 格や肺の脆弱さが違い、どれくらい陰圧がかかるのかよくわかっていま せん。そのため機械に陰圧をどのくらいで設定し、加えてデジタル化によ って時系列で状態がわかるようになったのでさらなる管理方法を習得す ればより一層早期に患者さんが回復、退院につながる可能性があります。そ こで現在使われてはじめているデジタルモニタリング胸腔ドレナージの データを用いてさらなる管理の改善点を明らかにしようと考えています。
	研究対象者	2018年1月から当センター呼吸器外科で肺切除を受けた患者さん。
	研究期間	西暦 2020年6月29日 ~ 西暦 2025年12月31日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を 利用します)	<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物(尿・便) <input type="checkbox"/> その他(記載して下さい) <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録	
試料・情報の 管理について の責任者	当センター 研究責任者	伊藤宏之
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診 療科/部局等	呼吸器外科
	共同研究の場合、共同 研究機関および各施設 での研究責任者	特になし